

園長 堀田あけみ

梶山幼稚園の特色の一つが、さまざまな植物が園内にあることです。私が子ども達を連れて通っていたころからの大きな木が、もっと大きくなって茂っています。桜が散って、今はナンジャモンジャの花盛り、先日までメジロが遊びに来ていた白梅は実を付けています。園舎の屋上には果樹園がありますが、実をつけると鳥が食べてしまうので、収穫まではいきません。畑では、ちゃんと野菜が育ちます。自分たちで育てた野菜をみんなで一緒にいただきます。危なくない範囲では、木登りもできます。秋にはどんぐりがたくさんとれます。都会の中であって、これだけの自然が毎日の遊びに組み込めるのは、贅沢な話なんだろうな、と思います。ちょっと他人事な言い方をしたのは、私自身は田舎の育ちで自然が一杯あるのがあたりまえだったのと、今の自宅がマンションの一階で、いろいろな植物が茂っているし、鳥や虫がそれなりに来ていて、自然はずっと日常だったからです。

自然との触れ合いは情緒的な面で語られがちですが、科学的な思考の源でもあります。動植物が成長したり、季節によって姿を変えたりする姿を観察して、その変化に感動したり、石が一つ一つ色も大きさも違うのをどうしてだろうと考えたりするところから、科学の目は出発します。私の母校は、ノーベル賞の受賞者を多く出しています。その中のさる方と同窓会のイベント等でご一緒することがあって、いろいろと個人的にお話を伺うことができました。私が教育学部の卒業生だったせいか、子育てに関して多くお話になりました。受賞後の講演等が出る質問が「ノーベル賞をとるような人に育てるにはどうしたらいいですか」だそうです。それが、とても困ると。自分はノーベル賞をとるために研究を進めてきたわけではないし、自分の子をそのように育てたいとも思わない。どんな本を読むとか、何を習うとかではなく、石ころや虫、木の葉や砂に触れることから科学が始まるのに、多くの母親はそれらを日常から締め出したがっている。腹に据えかねるお話だったんだろうと推測される口調でした。

5月はお出かけに良い季節です。梅雨に入ると外に出るのはしんどいし、明けたら暑さが大変です。今のうちに、少し遠くへ行ってみてはいかがでしょうか。愛知県は子どもを育てるには絶好の位置にある、とは亡夫の言い分です。お休みの日の朝に、今日はどこかで子どもと思切り遊びたいなあと考えてから計画を立てて、海にも山にも森にも湖にも行けるから。実は、唐突に「行く」と宣言されて、準備に追われる私は往々にして「予め言っとけ」と思っていたものですが。それでも、今日は汚れても騒いでも気にしないと決めて車を出すときには、わくわくしました。今になって思えば、週末遊びに出かけて、月曜から仕事できたんですから、若かったんですね。